

大学コンソーシアムひょうご神戸 単位互換事業が開始 鈴木 寛文部科学副大臣招聘シンポジウム



大学コンソーシアムひょうご神戸 単位互換事業が開始

大学コンソーシアムひょうご神戸では、単位互換協定に基づき、協定大学の間で単位互換できる授業が実施されます。自分の専門分野以外の授業や、興味のある他大学の講義を受けて、単位の認定を受けることができます。神戸女子大学では4つの科目を開放科目としております(「神戸女子大学単位互換事業開放科目一覧」参照)。

●平成23年度参加大学(50音順)

関西国際大学・関西福祉大学・関西学院大学・近畿医療福祉大学・神戸芸術工科大学・神戸松蔭女子学院大学・神戸女子大学・神戸親和女子大学・神戸常盤大学・神戸山手大学・夙川学院短期大学・園田学園女子大学

●対象学生

参加大学・短期大学の2年生以上に在学する学生(ただし短期大学生に関しては1年生の申し込みも可)

神戸女子大学単位互換事業開放科目一覧

科目名	女性学	単位数	2	担当教員	小河 洋子
定員	各10名	履修条件	女子のみ		
キャンパス	須磨キャンパス	学期	前期(春)	開講期間/曜日・時限	4月7日(木)~8月12日(金)/水・3時限(13:00~14:30)
	ポートアイランドキャンパス		前期(春)	開講期間/曜日・時限	4月7日(木)~8月12日(金)/水・5時限(16:40~18:10)
授業概要	女性が置かれている状況や抱えている問題について女性の視点で学ぶ。特に、家族・教育・身体・暴力と女性の関わりをテーマとして取り上げる。				
科目名	女性と職場	単位数	2	担当教員	小河 洋子
定員	各10名	履修条件	女子のみ		
キャンパス	須磨キャンパス	学期	後期(秋)	開講期間/曜日・時限	9月26日(月)~2月17日(金)/水・3時限(13:00~14:30)
	ポートアイランドキャンパス		後期(秋)	開講期間/曜日・時限	9月26日(月)~2月17日(金)/水・5時限(16:40~18:10)
授業概要	女性雇用労働者の置かれている状況と問題に注目し、具体的に理解を深める。例えば、法律や制度と女性労働者との関係、自分の望む生き方と社会が期待する生き方、どのように問題に対処できるかということなど。				
科目名	神戸の歴史と文化	単位数	2	担当教員	今井 修平 他
定員	各10名	履修条件	女子のみ		
キャンパス	須磨キャンパス	学期	前期(春)	開講期間/曜日・時限	4月7日(木)~8月12日(金)/木・5時限(16:20~17:50)
	ポートアイランドキャンパス		前期(春)	開講期間/曜日・時限	4月7日(木)~8月12日(金)/水・5時限(16:40~18:10)
授業概要	「神戸」の豊かな歴史と文化の営みについて、歴史面では、古くから知られる神戸・須磨の地縁的特性や明治以降の産業発展と中国とのつながり、また文化面では文学、服飾、料理、住居等多様な分野に亘って神戸との関わりについて学ぶ。				
科目名	世界の食文化	単位数	2	担当教員	梶原 苗美 他
定員	各10名	履修条件	女子のみ		
キャンパス	須磨キャンパス	学期	後期(秋)	開講期間/曜日・時限	9月26日(月)~2月17日(金)/金・4時限(14:40~16:10)
	ポートアイランドキャンパス		前期(春)	開講期間/曜日・時限	4月7日(木)~8月12日(金)/金・4時限(15:00~16:30)
授業概要	異なる食文化の比較対比や食文化の変容や受容の事例を通して、食文化が、実際には固定的なものでも不変のものでもないことを学ぶ。授業は各分野の専門家(国立民族学博物館ほか他大学および研究機関から学外特別講師としてお願いしオムニバス形式で行う)。				

鈴木 寛文部科学副大臣招聘シンポジウム

大学コンソーシアムひょうご神戸主催、兵庫県・神戸市後援による鈴木 寛文部科学副大臣招聘シンポジウムが平成23年1月22日(土)午前10時から、PIキャンパスB館AVホールで開催されました。「新成長戦略とグローバル社会における大学に期待される役割」というテーマのもと講演や報告があり、県内外の大学などから160名を超える参加者を迎えました。

鈴木副大臣の講演につづき大学間連携事業報告「海外派遣・留学生インターンシップについて」が、ひょうご大学連携推進協議会事務局からなされました。これらの発言を踏まえてディスカッションがあり、各シンポジストが発言しました。

鈴木副大臣は、「日本の若者は内向き志向と言われているが、大学が、グローバル人材を育成することにより国際競争力の強化が可能となる」など主張されました。一方、諸星 裕桜美林大学大学院教授からは、自らの経験を踏まえて「グローバル人材の育成には、大学、高校、産業界の連携が必要である」と強く主張されました。参加者は、各シンポジストの意見に熱心に耳を傾け、休憩後には質疑応答も行われました。

